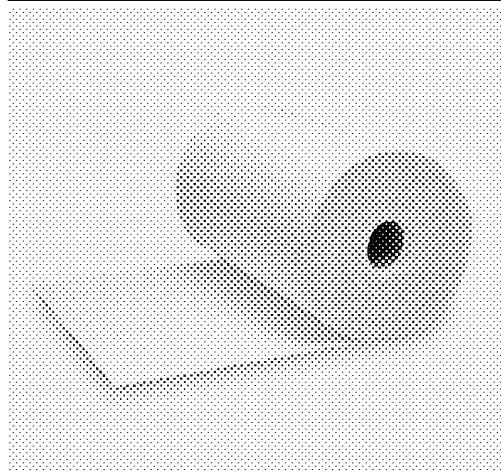


旭化成と電池遮炎材

マフテック、EV向け開発へ

マフテックグループ（東京都千代田区、松崎耕介社長）は、旭化成と電気自動車（EV）用電池の安全部材を開発する。マフテックの耐火断熱素材である結晶質アルミナ繊維を、旭化成の樹脂に含浸させる。EV電池の遮炎材として使い、電池が発火した際に高熱の炎や粒子を遮断する。鋳物を使う既存製品より軽く割れにくい部材にしつつ、コストを同程度に抑える。2025年3月をめどに製品化する。

マフテックの結晶質「特徴で、自動車の排ガスアルミナ繊維」マフテックを浄化する触媒コンタクトは1600度Cバーターの把持材が主の高耐熱性と弾力性がな用途だ。旭化成の樹



マフテックの結晶質アルミナ繊維

脂と組み合わせて成形する寸法に加工しやすさを持たせ、要求される。板状に加工して

電池モジュールの上部に配置し、発火時に居室を守る。

マフテックは、マイカ（雲母）を使う既存技術は重量や割れが課題だとみており、これらを補う新技術に育てる考えだ。今秋には営業を始める。マフテックは22年に

三菱ケミカルグループから分社独立した。米大手投資ファンドのアップロードの傘下。自動車（BEV）シフトを踏まえ、EV電池向けや定置用蓄電池向けなどの新しい用途を開拓している。